

家畜衛生だより

Animal Hygiene News Letter

第290号

令和4年10月発行



新潟県

発行元：中央家畜保健衛生所

〒959-0423 新潟市西蒲区旗屋 636

TEL 0256-88-3141 FAX 0256-88-3185

Mail ngt066010@pref.niigata.lg.jp

高病原性鳥インフルエンザ ～発生リスクは極めて高い～

今シーズン野鳥等からの分離事例（令和4年10月25日現在）

野鳥	回収日	都道府県	市町村	検体	種名	判定日	結果
1例目	9/25	神奈川県	伊勢原市	死亡野鳥	ハヤブサ	9/29	H5N1 高病原性
2例目	10/4	宮城県	栗原市	死亡野鳥	マガン	10/7	H5N1 高病原性
3例目	10/11	福井県	南越前町	死亡野鳥	ハヤブサ	10/14	H5 亜型高病原性
4例目	10/8	北海道	別海町	野鳥糞便	カモ類	10/17	H5 亜型高病原性
5例目	10/14	宮城県	栗原長	死亡野鳥	マガン	10/18	H5 亜型高病原性
6例目	10/16	新潟県	新潟市	衰弱野鳥	ハヤブサ	10/20	H5 亜型高病原性

今シーズンは例年よりも早く9月に神奈川県で、国内初の野鳥から高病原性ウイルスが検出、その後も各地で相次いで確認されています。今のところ、養鶏場での発生は確認されていませんが、**県内でも10月16日にハヤブサから同ウイルスが検出されていることから、飼養衛生管理基準の遵守等による発生予防対策の徹底をお願いします。**

- 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等
- 衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置と使用
- 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等
- 家きん舎に立ち入る者の手指消毒等
- 家きん舎ごとの専用の衣服及び靴の設置と使用
- 野生動物対策のためのネット等の設置、点検・修繕、家きん舎周囲の整理整頓・草刈り
- ねずみ及び害虫の駆除
- 畜舎周囲と衛生管理区域境界部への消石灰散布

飼養衛生管理基準の遵守、異常畜の早期発見・通報をお願いします

昨シーズンの国内発生状況



家きん：12 道県 25 事例	
採卵鶏	12 (1)
肉用鶏（種鶏含む）	8 (1)
あひる	2 (4)
エミュー	3
野鳥：8 道府県 107 事例	
環境	9
ツル類	1
ハクチョウ	8
カモ類	4
猛禽類	27
ハシブトカラス	58

()：疫学関連農場・施設

豚熱 ～引き続き警戒してください～

野生イノシシについては、この8月に四国地方で陽性個体が確認されるなど、陽性確認地域は確実に広がっています。新潟県では、今年5月を最後に陽性個体は確認されていませんが、秋は野生イノシシの行動が活発になる時期でもあることから、野生動物の侵入防止や農場出入り時の消毒等、今後もウイルスの侵入防止対策に努めてください。

県内で養豚場でのワクチン接種が開始されてから、2年半が経過しました。多くの農場では、第1世代（ワクチン未接種豚から生まれた種雌豚）から第2世代（ワクチン接種豚から生まれた種雌豚）に移行しつつあると思われます。これに伴い、ワクチン接種日齢の変更等も必要と考えられます。家保では、免疫付与確認検査等を通し、農場ごとの適切な接種時期の検討を行っています。皆様方からのご理解とご協力をお願いします。

飼養衛生管理基準の遵守、異常畜の早期発見・通報をお願いします

鹿児島県で全国和牛能力共進会が開催

10月6日から10日に、鹿児島県において「第12回全国和牛能力共進会」が開催されました。この大会は、「全国の優秀な和牛を5年に一度、一堂に集めて、改良の成果やその優秀性を競う大会です。全国の和牛関係者にとっては、この大会で優秀な成績を収めることは、各道府県の和牛のブランド力の向上につながることから、最も重要な大会」といわれています（鹿児島全共HPより）。今大会では、41道府県から約450頭が出品されました。各部門の上位成績は九州からの出品牛が多くを占め、改めてレベルの高さを実感させられる結果となりました。

新潟県からは、種牛の部と肉牛の部に各2頭、計4頭の出品がありました。このうち肉牛の部で優等賞、種牛の部と肉牛の部で1等賞を受賞されました。次回は令和9年に北海道での開催が計画されています。今後とも皆様方のご活躍に期待いたします。

暑熱による家畜の被害状況 ～令和元年以降では最少～

今夏は、6月下旬には梅雨明けしたような気候となり、例年にも増して長く厳しい暑さになるかと思われました。しかしながら、8月に入ってから台風等の影響で雨が多く、気温の変動も大きく不安定な気候が続きました。暑熱による家畜被害についても、7月は例年より多かったものの8月以降は少なくなったことにより、被害総額は令和元年以降では最も少ない21,677千円となりました。

一方、8月上旬の大雨では村上市と関川村において大規模な水害が発生しました。畜産施設においても多くの被害が確認され、今もなお復旧作業等でご苦労されていることと思われます。心よりお見舞い申し上げます。

(単位：頭羽、千円)

年	乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏		ブロイラー		合計
	頭数	被害額	頭数	被害額	頭数	被害額	羽数	被害額	羽数	被害額	被害額
R1	54	16,040	6	2,771	10	457	58,409	42,234	8,766	3,923	65,425
R2	39	12,983	6	1,906	10	321	35,854	27,046	8,609	3,832	46,088
R3	25	6,996	1	6	32	1,320	14,285	11,171	5,249	3,367	21,860
R4	36	10,195	5	2,361	26	1,040	3,539	3,123	11,926	4,958	21,677

家畜衛生だより



中央家畜保健衛生所佐渡支所

No.212 令和4年11月発行

〒952-1209 佐渡市千種 264 番地

Tel 0259-63-2676 Fax 0259-63-4781

E-mail ngt066011@pref.niigata.lg.jp

牛ウイルス性の下痢症に注意！

晩秋から初春にかけて、寒冷や気候の変動によるストレスや、冬場は閉め切った舎飼となるため、ウイルスに起因する下痢症が増加します。特に「牛コロナウイルス病」は、県内では、令和3年に**9件**（混合感染を含む）、令和4年（9月現在）**2件**の発生がみられました。治療法がなく、乳量の低下、子牛や肥育牛の発育不全など生産性が大きく阻害されます。自身の農場へ原因ウイルスを持ち込まないよう心掛けてください。

症状	<ul style="list-style-type: none">● 子牛：乳白色～黄色の水様性下痢、発熱、脱水、一般症状の悪化● 育成・成牛：水様性下痢、まれに血様下痢、搾乳牛では急激な乳量の低下
対策	<ul style="list-style-type: none">● 導入牛は、一定期間隔離する。● 農場へ立入る際の車両及び踏込消毒を徹底する。● 他の農場で使用した靴等は、十分に洗浄・消毒してから使用する。● 流行性の下痢が発生している農場へは立ち入らない。● 下痢を発見したら、早急に獣医師、家畜保健衛生所に相談してください。

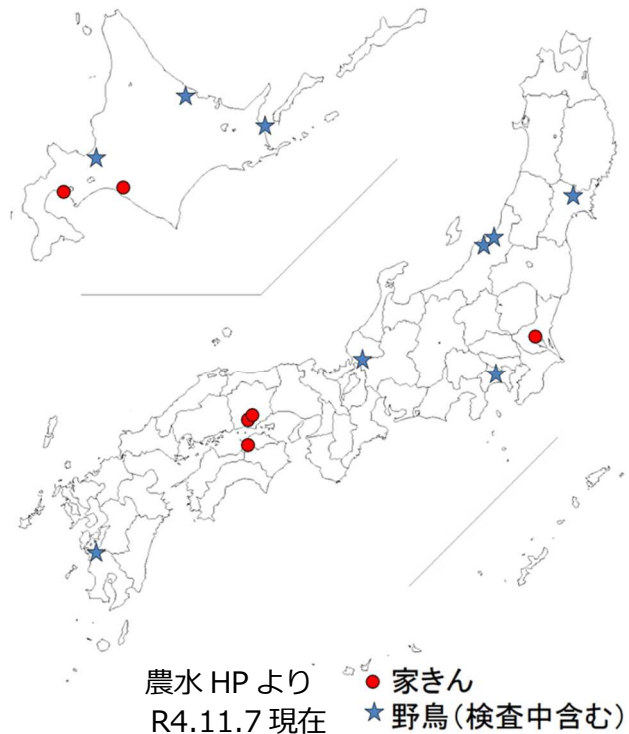
高病原性鳥インフルエンザ ～例年より早くウイルス確認～

令和3-4 シーズンは、家きんでは**12**道府県**25**事例が発生し約**189**万羽が殺処分されました。5月中旬までの発生や留鳥で感染が多く確認されるなど例年と異なる状況がみられました。また、国内では5月14日の発生を最後に終息しましたが、アジア地域をはじめ、欧州、北米では家きん並びに野鳥での感染が確認されました。

今シーズンも国内へのウイルスの侵入及び家きんでの発生リスクは極めて高いと予測し警戒を呼び掛けていましたが、10月28日の岡山県と北海道での発生後、**4**道県**6**事例の発生が確認されています（R4.11.7現在）。

野鳥からは、例年より早く9月25日に神奈川県でハヤブサから検出され、その後も各地で相次いでウイルスが確認されています。新潟県内でも10月16日に新潟市でハヤブサ、21日に聖籠町のノスリでウイルスが検出されています（**6**道県**10**事例）。

家きん舎内にウイルスを入れない・持ち込まないよう飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、関係者全員で発生予防対策への取組をお願いします。



消毒薬の効果的な使い方

冬期は積雪や消毒薬の凍結が起こるため、十分に消毒効果が発揮できません。以下の工夫をしてはどうでしょうか？



- ▲ 消石灰をそのまま使用
- ▲ 畜舎専用長靴を置く
- ▲ 低温下で効果が減弱しやすい逆性石けん（パコマ、アストップ等）はアルカリ剤（消石灰）を添加することで消毒効果を高めます（例：逆性石けん（500倍液）10L+消石灰17g）。
- ▲ また、畜舎周囲の消石灰散布は雪上でも消毒効果があります（-25℃まで効果確認）が、融雪による希釈やpHの変化に注意してください。

▲ 消毒槽を農場内部に置き、汚れを落として消毒

秋期の高千家畜市場について

11月2日、高千家畜市場で県内外から多くの購買者が参集し、令和4年度最後の家畜市場が開催されました。上場頭数は雌 **58** 頭、去勢 **72** 頭で合計 **130** 頭でした。前回の7月市場では大幅に値を下げたこと、最近の畜産情勢から更に厳しい結果が心配されましたが、雌では若干低下したものの、平均価格、kg単価は増加しました。今後も優良和牛子牛生産地域として、繁殖成績、子牛の発育などに留意し、子牛の安定供給に努めていきましょう。

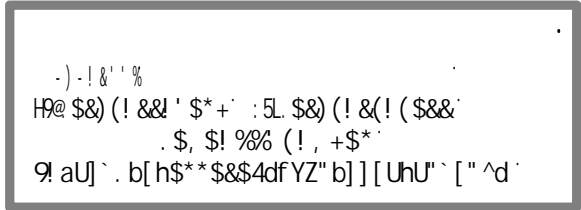
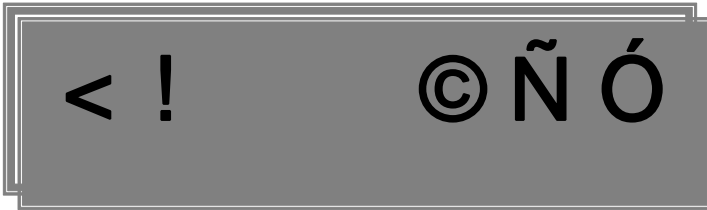
	日齢	体重(kg)	日齢体重(kg)	平均価格	kg単価		
				(円)	前回比較	(円)	前回比較
雌	249	241	0.97	505,962	-2,098	2,126	+125
去勢	242	254	1.06	699,921	+15,075	2,792	+303
全体	245	248	1.02	613,385	+34,281	2,495	+214

※税込価格

鹿児島県で全国和牛能力共進会が開催

10月6日から10日に、鹿児島県において「第12回全国和牛能力共進会」が開催されました。全国の優秀な和牛を5年に一度、一堂に集め、改良の成果やその優秀性を競う大会です。全国の和牛関係者にとって、この大会で優秀な成績を収めることは、各道府県の和牛のブランド力の向上につながることから、最も重要な大会です。今大会では、41道府県から約450頭が出品されました。各部門の上位成績は九州からの出品牛が多くを占め、改めてレベルの高さを実感させられる結果となりました。

新潟県からは、種牛の部と肉牛の部に各2頭、計4頭の出品がありました。このうち肉牛の部で優等賞、種牛の部と肉牛の部で1等賞を受賞されました。次回は令和9年に北海道での開催が計画されています。今後とも皆様のご活躍に期待いたします。



WO¾ñ Óä 3 + è 3 ö ø»-Ë† * ùï , ŠÊ- W• -" ø

R3 シーズン高病原性鳥インフルエンザ発生状況

%& &)	
採卵鶏	12(1)
肉用鶏 (種鶏含む)	8(1)
あひる	2(4)
エミュー	3
%\$+	
環境	9
ツル類	1
ハクチョウ	8
カモ類	4
猛禽類	27
ハシブトカラス	58

農水省 HP より

() : 疫学関連農場・施設

令和3年度シーズンは、家きんで12道県25事例の発生を確認、疫学関連農場・施設を含め30農場1施設の約189万羽が殺処分されました。同一シーズンで複数の血清型(H5N1、H5N8)の確認、例年冬鳥の渡りが終わるとされる4~5月での発生、野鳥ではカラスや猛禽類など留鳥での感染が多くみられたなど、過去の事例とは異なる状況でした。

国内では、5月14日での発生を最後に終息したものの、アジア地域をはじめ、欧州、北米では夏季になっても継続して家きん並びに野鳥でも感染が確認されています。国は、今シーズンも国内へのウイルスの侵入及び家きんでの発生リスクは極めて高いと予測しており、十分に警戒するよう呼び掛けていました。

このような中、神奈川県において9月25日に今シーズン国内初の野鳥から高病原性ウイルスが検出、その後も各地で相次いで確認されています。今のところ、家きんでの発生は確認されていませんが、県内でも10月16日にハヤブサから同ウイルスが検出されていることから、飼養衛生管理基準の遵守等による発生予防対策の徹底をお願いします。

- 衛生管理区域に立ち入る者の手指消毒等>ì
- 衛生管理区域専用の衣服及び靴の設置と使用>ì
- 衛生管理区域に立ち入る車両の消毒等>ì
- 家きん舎に立ち入る者の手指消毒等>ì
- 家きん舎ごとの専用の衣服及び靴の設置と使用>ì
- 野生動物対策のためのネット等の設置、点検及び修繕、家きん舎周囲の整理整頓及び草刈り>ì
- ねずみ及び害虫の駆除>ì
- 畜舎周囲と衛生管理区域境界部への消石灰散布>ì

